

特別記事

会長挨拶 2015年の年頭にあたり

縣 秀彦 (天文教育普及研究会/国立天文台)

新春を迎え、当会の会員各位のご多幸と更なるご活躍をお祈り申し上げます。

振り返ってみると、日本の科学界が STAP 細胞騒動に終始した 2014 年は、はやぶさ 2 の打ち上げ以外に社会全般に広く関心を持ってもらえるような天文ニュースが無かったように感じられるかもしれません。しかし、ESA の彗星探査機ロゼッタが彗星着陸に成功したり、ALMA が視力 2000 を達成したりと歴史上重要な出来事がいくつもありました。貴重な天文現象がほとんど無かった年にも関わらず、大勢の人たちが 10 月 8 日の皆既月食のみならず、中秋の名月やスーパームーンを楽しむなど、明らかに人々の天文・宇宙への関心は高まっているように感じます。

余談ではありますが、大晦日、数年ぶりに紅白歌合戦を家族と見ていると「流星」、「星」や「宇宙」という天文ワードが歌詞に登場する歌曲がたくさんあることに改めてビックリ。私たちが考えている以上に星や宇宙は現代人にとって身近な存在なのかもしれません。

2 月から 8 月にかけてニューホライズンズが冥王星に接近する以外は今年も今のところ大きな天文の話題はありませんが、4 月 4 日 (土) の皆既月食は全国で楽しめる好条件の月食ですし、主な流星群の中では、ペルセウス座流星群もふたご座流星群も月明りがなく好条件での観測が期待されます。

昨年以上に多くの人たちが実際に星空を見上げることをきっかけに天文・宇宙に関心を持ち、宇宙の原理を理解しようとする中で、目先のことばかりではなく、大きなフレームで自分たちの立ち位置を確認して、将来に対しての夢や希望、そして、人びとが過去・現在・未来とつながっていくことの尊さを共感

してほしいと願っています。

今年国連とユネスコが定めた「国際光(ひかり)年」であり、「宇宙からの光」をテーマに、ライトダウンイベントを中心に、年間通じて様々な天文イベントが世界中で実施される予定です。また、国際天文学連合が進める「太陽系外惑星のネーミング」もいよいよ命名したい惑星系への投票が始まろうとしています。地球型系外惑星の研究や地球外生命の発見への関心が社会的にも高まりつつあります。このような機会を通じて、周囲の人々の様々な形での天文・宇宙への関心の芽生えを敏感に読み取り、客観的なデータや信頼性の高い理論、そして一緒に星空を楽しむという体験や文化の共有に基づき、天文・宇宙への知識や経験がその人の人生観や世界観に還元されていくよう地道な足場がけをしていくことが、私たち天文教育普及研究会の多くの会員にとっての使命であり、生き甲斐の一つではないでしょうか？

このように、天文教育普及研究会への期待や社会使命が高まりつつある今日、当会自身が関係機関・団体・個人等と協力してさらなる情報の発信と共有に務め、会員個人の幸福実現のみならず、世界全体の社会幸福の実現に向けて、悩み・議論しながら、それでも一歩前進できる年となることを願っています。



縣 秀彦

h.agata@nao.ac.jp